都民に緑化思想を徹底

東京と緑

発行所
社団法人
東京都造園緑化業協会
東京都渋谷区神南1-20-11
電話（03）462—2850
編集人
広報委員会

大成功の四大行事
緑化月間を強力に推進

十月の全国一斉に展開した「都市緑化月間」にアピールして社団法人・東京都造園緑化業協会（大田垣勇会長）は「都市防災と緑化」のシンポジウム②苗木無料配布③樹木等施設②緑化思想の徹底を図った。今年は官民団体から公共団体の社団法人に昇格、会員一同意識あらたに、業界に押し寄せている大きな波を振り切って、造園緑化業界人の社会的使命感を深く都民に訴え、その協力、各行事とも、都民の関心は強く、来年も同じ行事をしく欲しいと要望が続出、会員をはじめ会員であることの誇りを再認識し心を強くした。行事は大成功だった。

大成功だった四大行事は、本年度の事業計画案を可決した三月十一日の創立総会で決定。

その後、理事会はもち、運営、総務、事業、広報、技術各委員会で行事内容の細部にわたって検討各委員会とも相互に意見交換して各委員会にかけて決定した。（この経過は別稿「理事会などの動き」を参照）

各行事を指導した各委員会は、開催日の前に、現場の事前調査をするなど、多忙の時もかえりみず各委員とも、協力そのものだった。とくに、天候に左右される行事については、第一案、第二案なども考えて、紙面を開放していますが、とくに、人事往来や「この人」など人物に関するものを歓迎。

本誌は、会員の皆さまのほか、官庁、公共団体、造園緑化の関係業界、その家族、造園緑化の理解者、都民一般からの投稿をお待ちしています。

論文、随想、評論などの投稿を

原稿は編集委員会におかせください。なお、原稿は返却を欠かれたり、添削する場合もありますからご了承ください。

各行事とも、天候に恵まれ、約半年の苦労は、押すな、押すなの都民の足並に、いっぺんに吹き飛んでしまい、逆に、うれしい悲鳴をあげた。

四大行事の日時、場所（次の通りだった。

【苗木無料配布】　十月二十三日午後零時五十分～都立代々木公園B地区園路（NHKホール前、渋谷公会堂前間）～サッキ三千本。

【都市防災と緑地のシンポジウム】　十月二十一日、午後一時～四時半十五分、石垣「記念ホール（港区赤坂一の九の二三、三会堂ビル内）

スペリ（白、六尺もの一本）、金モクセイ（一本、六尺もの）。植栽、植樹園。

【樹木手入れ講習会】　十月二十日午前十時～午後二時半。都立神代植物公園、テーマ「日陰（樹木医」（午前・学科、午後・実習）

【都市防災と緑地のシンポジウム】　十月二十一日、午後一時～四時半十五分、石垣「記念ホール（港区赤坂一の九の二三、三会堂ビル内）

庭と風土

高原栄重

庭の美しさは、風土に根ざしている。日本の庭が美しいのは、それが、日本の風土に根ざしているからである。ヨーロッパの庭が美しいのも、ヨーロッパの風土に根ざしているからである。また、日本とヨーロッパの庭が違うのも風土が違うからである。

ところが近年、世界の庭がたいへんよく似てきた。とくに公園や広場のような公共的な庭が似かよってきた。

たとえば、新宿副都心の高層ビルの周辺にある広場は、デファンス（パリ）の再開発地区にある広場とよく似ている。多摩ニュータウンの中の公園も、ニューヨークの市営住宅団地の緑地とよく似ている。

なぜこのように、庭の景観になるのだろう。現代は庭の美しさよりも機能性を評価するようになった。世界の人々の生活や行動のパターンが似てきた。だから庭が似てきた、といえないだろうか。

あるいは、庭園デザイナーが観念的になってきた。風土から出発する基本的条件の一つは「風土」であると思う。

風土には二つの側面がある。その一つは、デザイナーの美意識の根源者の美意識に影響を与える風土である。

そのつぎは、庭の背景になる自然の美しさである。それが、「とき」と「ところ」を超えて普遍的な「美」を持った庭を造る緊要であるように思う。

（筆者　社団法人・東京都造園緑化業協会副会長）

理事会などの動き

（52年8月5日～52年10月30日まで）

【第五回役員会】（52年8月3日）

第一号議案の「都市緑化月間」行事中、社会福祉施設の緑化について、

今年は都心内の老人ホームを考える。施行所については民生局並びに公園地帯で選定して貰うことを決定した。

(2)苗木の無料配付について自雄を十月二十三日（日）に実施する苗木は植樹緑化推進委員会から二、〇〇〇本程度の寄附を受け、場合により若干の購入を考える。昨年同様ミニ風船を同時に配ることを決定した。

(3)シンポジュウムにつき検討された。テーマ、講師等については意見が多く決定は次回の持越となる。

(4)都民向実技講習については、別途協議を内容とし、場所は都立

【総務委員会】（52年8月5日）

神代植物公園、日時は十月三十日（日）午前十時～午後三時三十分頃迄。対象人員一〇〇名、テキストを配付する等を決定した。

【事業委員会】（52年8月15日）

「都市緑化月間」中の苗木につき意見交換。

【庶務委員会】（52年8月19日）

日比谷公園苗木場で「東京を安全な都市にするために」のテーマによる座談会を開催した。

出席者は、建設省都市防災対策室長の上田康二氏、東京都防災対策本部主席の小川海平氏、東京都知事、一般都民代表として関東大震災の体験された花村重子女史の以上五氏による座談会であった。司会は当協会役員の原栄重氏であった。

【総務委員会】（52年9月5日）

【第四回役員会】（52年9月8日）

各委員会の検討の結果について、

「都市緑化月間」中の行事について

(1)「都市緑化月間」中の行事について細部にわたり検討された。

(2)経費審査申請についての説明について検討した。

【技術委員会】（52年9月7日）

(1)現代理人ハンドブック解説書について検討した。

(2)シンポジウム　検討行われ、テーマ「防災に役立つ緑地のあり方」。講師については、伊藤滋、川本忠雄、高原栄重の諸氏についてはお願いしているが、後の二名については次回迄に確定するよう努力する。

第二号議案

「都市緑化月間」中の行事について審議が行われ、審議に入る。

「都市緑化月間」

(1)苗木無料配布について　苗木取扱い材料、代金徴収方法等について検討された。

(2)「緑と緑」第一〇号発行について検討した。

【現場代理人ハンドブック解説講習会】（52年9月16・17日）

現場の第一線にたつ技術者として十二分の心得などを説明した。

【第七回役員会】（52年9月19日）

第一号議案

「都市緑化月間」行事について

(1)社会福祉施設緑化　原案通り実施することを決定した。

(2)植樹緑化　原案通り実施することを決定した。

(3)都民向樹木手入講習　原案通りとすることを決定した。

(4)苗木無料配布について　苗木取扱い材料、代金徴収方法等について検討された。

(5)緑化推進委員会からの寄附苗木二五〇〇本購入苗木五〇〇本の計三〇〇〇本とすることを決定した。

(6)緑化思想の徹底について　具体的については役員会として総括と評価を行い、明年度以降の対策に反映させることを決定した。

【第八回役員会】（52年10月6日）

【広報委員会】（52年10月6日）

(1)「都市緑化月間」行事の件について審議が行われ、代表者会議について検討された。

(2)「緑と緑」第一〇号発行について検討した。

【第十回役員会】（52年10月6日）

【低圧電気の取扱者講習】（52年10月17日～21日）

受講者　八名

【技術委員会】（52年10月20日）

十月二十日から各都民公募の苗木手入講習の参加申込者が予想をはるかに上回り、四百八十一名になったため、東京都小笠原支庁、王田喜久蔵氏、参加希望者代表、杉並区の第一線にたつ技術者として、林慶一氏、造園緑化の打合せを行ない、新の編成、担当講師

【アーク溶接講習】（52年10月20日）

受講者　十一名

【技術委員会】（52年10月21日）

(1)樹木手入講習の打合せを行ない、新の編成、担当講師

【総務委員会】（52年10月17日）

港区赤坂一九一三　三会堂ビル内、石垣記念ホールにおいて（担当者）立会の上、打合せを行なった。

【社会福祉施設緑化】（52年10月21日）江戸川区宮川一四六

社会福祉法人　江東園にサルスベリ、金モクセイ各一本宛、サツキ一〇〇株の植栽工事一式を行なう。

【都民向樹木手入れ講習会】（52年10月20日）

午前十時からの講習であるが、九時には二十人位と成る参加者が前後に並び、午後授業に入っても、落ち着きなく、参加者であれば真剣に学ぶ筈であるが、中には、八木、八木、渡辺祐一、○横山貞雄、横瀬大八、和田貞次以上四十九名。

【監事】　田丸実、小形研三、関沢昇太郎（○印は役務出席）

【会長】　佐藤昌

【副会長】　小沢知英、加藤一男、

【理事】　浅野三義、荒井英男、浅地広、○池原謙一郎、井上義三、岩田勝之助、伊藤邦衛、内田正雄、大塚秀夫、川本忠雄、川名俊一、岩田一夫、北村信夫、北村文雄、○小林清人、佐藤幸雄、清水正次、鳥村之吉、十菱駿武、○高原栄重、高橋雅夫、高橋照彦、○滝沢幸男、急沢洋卓司、中根金作、中島秀雄、○西沢一夫、野口有朋、蛭田真一、福島久夫、藤井昌志、○星忠治郎、本間一夫、○堀田正彦、○前島康彦、前嶋敏彦、○丸田頼一、松下悟悟、○三浦一也、森蘭祐一、○村雲啓、村松貞次郎、○村山正治、○横瀬大八、和田貞次以上四十九名。

【監事】　田丸実、小形研三、関沢昇太郎（○印は役務出席）

新会員紹介

村山正治

【国分】　浅野三義、荒井英男、浅地広、○池原謙一郎、井上義三、岩田勝之助、伊藤邦衛、内田正雄、大塚秀夫、川本忠雄、川名俊一、岩田一夫、北村信夫、北村文雄、○小林清人、佐藤幸雄、清水正次、鳥村之吉、十菱駿武、○高原栄重、高橋雅夫、高橋照彦、○滝沢幸男、急沢洋卓司、中根金作、中島秀雄、○西沢一夫、野口有朋、蛭田真一、福島久夫、藤井昌志、○星忠治郎、本間一夫、○堀田正彦、○前島康彦、前嶋敏彦、○丸田頼一、松下悟悟、○三浦一也、森蘭祐一、○村雲啓、村松貞次郎、○村山正治、○横瀬大八、和田貞次以上四十九名。

修景協を法人化

初代会長に佐藤昌氏

（昭和五十一年七月付認可書交付）

公団造成鉄興不動産会社

代表取締役社長　田中宗一

社団法人東京都造園緑化業協会が、昨年七月付で認可書交付を受けて発足した日本造園緑化業協会が、発足一カ年後の昭和五十二年八月に造園に関係するすべての人々、すなわち学界、官界、設計家、施工者、前局、康彦、前嶋敏彦、○丸田頼一、松下悟悟、○三浦一也、森蘭祐一、○村雲啓、村松貞次郎、○村山正治、○横瀬大八、和田貞次以上四十九名。

【監事】　田丸実、小形研三、関沢昇太郎（○印は役務出席）

【会長】　佐藤昌

【副会長】　小沢知英、加藤一男、

いちょう・東京都の木

一、当協会発行の第一回シリーズものとして、美しい木、優かしい木、丈夫な木として知られる東京都の木いちょうを併写真として広報のご参考に供しました。

新装刷
一部九〇〇円にて特別頒布

B5判　一〇〇頁
一部一、五〇〇円で特別頒布
（郵送別）

現場代理人ハンドブック

二、工事施工に当り、現場代理人として心得て置くべき点を詳細に取纏め、工事施工上の信頼として欠くことのできない手引きです。ご利用下さい。

B5判　一〇〇頁
一部一、五〇〇円で特別頒布
（郵送別）

新会員紹介

新潟県関新潟一八一三
公団造成鉄興不動産会社
代表取締役社長　田中宗一
修景協を法人化
初代会長に佐藤昌氏
（昭和五十一年七月付認可書交付）
公団造成鉄興不動産会社が、昨年七月付で認可書交付を受けて発足した日本造園緑化業協会が、発足一カ年後の昭和五十二年八月に造園に関係するすべての人々、すなわち学界、官界、設計家、施工者、前局、康彦、前嶋敏彦、○丸田頼一、松下悟悟、○三浦一也、森蘭祐一、○村雲啓、村松貞次郎、○村山正治、○横瀬大八、和田貞次以上四十九名。

カラー写真集
昔の庭と今の生活の庭展

東京都立神代植物公園開園十五周年を記念して、昨年、同公園内に庭園技術の粋を集め、二十四の作品を展開した「昔の庭と今の生活の庭展」の「カラー写真集」を二部限定に実費で配布します。造園に関心を持っている人や研究家、学生諸姉の資料としてご活用下さい。数量限定のため、お早めにお申込み下さい。

B5判　三〇ページ
実費　三百円（郵送料別）

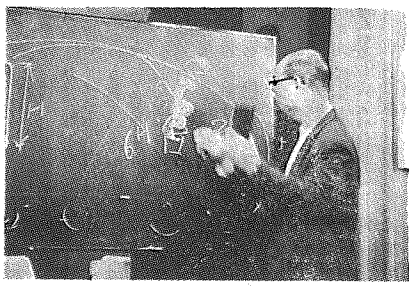
※作品に説明付き。

申込み先
社団法人　東京都造園緑化業協会
渋谷区神南一—二〇—一（造園会館内）
郵便番号一五〇
電話　四六二局二八五〇

シンポジウム

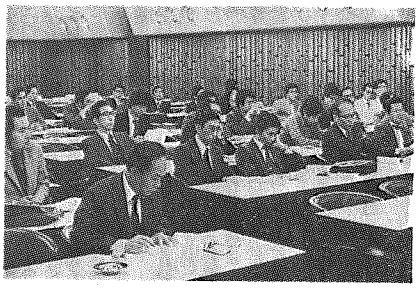
テーマ「都市防災と緑地」

――場所　石垣記念ホール



講師団（左から高原、志村、伊藤、浅見、川本の各氏）

黒板をつかって説明する講師



会場を埋めた大学教授や研究家、実務家たち

都市防災と緑の関係をつく

当協会主催、東京都、渋谷区後援の特別企画「シンポジウム『防災に役立つ緑地の"あり方"』が十月二十二日、港区赤坂一ツ木の二三、三会堂ビル内石垣記念ホールで午後一時から開かれた。大学教授はじめ都市緑化に関心をもつ研究家、一般都民、約百五十人が参加。五人（＝＝＝）＝＝＝

樹木の手入れについて

樹木手入れ講習会で使用したテキストの一部です。

剪定整枝

庭木の剪定（枝切り）は庭木を美しい形にし、害虫や病害に少なくするために行うもので、これを目的別にすると、通常二つに分けて考えます。

樹姿を観賞する庭木、花を観賞する花木とでは、剪定の方法もちがって、生長を助長させるため、生長を抑制するため、新しく出るため、勢力を保つため、良い実やよい花をつけるため、樹姿をよくして、老化を防ぎ、枝を切ることにより樹木の若返りをはかり、他の庭木の成育を助ける等の連帯された美しさのため実施されるものです。

方法としては、整枝剪定、刈込剪定があり、人工仕立と自然仕立に分かれています。

専門用語としては、コスカシ、ノスカシ、ミヤマスカシ、トビトリ、ミツを切る、ミドリ摘み、大スカシ、中スカシ等がありますが一般には次のように分けてあります。

【大スカシ】

茂り過ぎた木を適当に透かすことをいい、ノコギリで大枝を切り落す、どこで切るか、あらかじめ目をして、木を下りて、なって、切り枝に支障ともめる事がないものです。

いてみて切るようにすれば失敗がない。切る枝の下側をノコギリで少し切ってから、上側より切ると枝が裂み裂けることはありません。これで木の姿の基本形が出来ます。

【中透し】

茂り過ぎた枝をすかせ、風通しを良くし、病虫害の発生を防ぐ。

【小透し】

中透しよりさらに細い剪定で、ハサミで行う。樹形を整える。但し、種類、性質によって強く剪定してよいものと、あまり切ってはいけないものがあります。

【人工仕立】

整枝剪定は、原則として幹の先端をよく、病虫害の発生を防ぐ。

次に幹の枝から上に向って伸びた成長の盛んな立枝を除く。これは、徒長枝となって他の枝の成長を乱すので感心しない。木の剪定は、枝が基本的に多く出ているときは、枝に従って適当にノコギリで切り、上部から下部へ平均に枝配りをして、次にフトコロ枝、立枝、カラミ枝、病枝、枯枝、弱枝を剪除します。樹冠の上部より下部に陽りながら剪定すると案外うまく出来る事です。

【自然仕立】

自然形に姿を整えるとき、主枝の長さがそれぞれ異なりますので木全体の姿をそれぞれ異なりますので木全体の姿を考え長い枝、短い枝を作る。頂部に強んで、幅の方がおとろえるので、上部ほど大きく剪定し、下部に陽りながら行う。枝の切り方は、大枝切るとき（幹）ノコギリは幹に接して行うが、この時の皮をまかないで、枝下方に少々

時により、摘果のためシンを止めますが、この場合、枝ぶりについて側枝を立てシンを作る。風で折れた時も同じである。

また、フトコロ枝といって、樹冠の内「フトコロ」に出た枝は、通風を悪くし、病虫害の発生の原因となるので除去します。これを放っておくと、枝が弱くなって枯除くことを忘れてはならない。

以上は、主枝から出る側枝と、小枝の剪定ですが、この側に主枝に相当するもの剪除を行い、木の徒長部からの枝落しをして、主幹に対して、四方に均等するよう配慮し、樹冠上の上の間隔も適当に枝配りをします。

枝が一ヵ所より多く出ているときは、枝に従って適当にノコギリで切り、上部から下部へ平均に枝配りをして、次にフトコロ枝、立枝、カラミ枝、病枝、枯枝、弱枝を剪除します。樹冠の上部より下部に陽りながら剪定すると案外うまく出来る事です。

【自然仕立】

自然形に姿を整えるとき、主枝の長さがそれぞれ異なりますので木全体の姿をそれぞれ異なりますので木全体の姿を考え長い枝、短い枝を作る。頂部に強んで、幅の方がおとろえるので、上部ほど大きく剪定し、下部に陽りながら行う。枝の切り方は、大枝切るとき（幹）ノコギリは幹に接して行うが、この時の皮をまかないで、枝下方に少々

ノコギリを入れてから上部より切り落すと皮がはぎません。

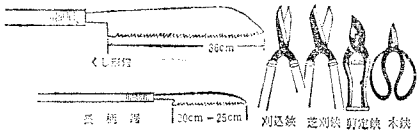
枝の止め方は、下芽のある先で切る。上の芽を残すと立枝になって、水平にならない。また、枝配りして、残そうところに枝のない時、枝を下垂させたい時は強剪定も必ず枝を残します。

【剪定時期】

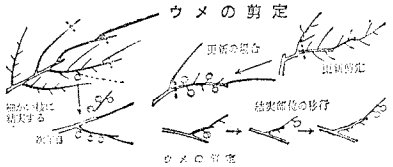
落葉広葉樹は、落葉後の十月～十二月、春の発芽前が新緑が出揃って一応落ちがきまった後、剪定する。針葉樹は十月～十二月、春先で生長の盛んな春から夏の剪定まで陽りながら剪定するとよい。

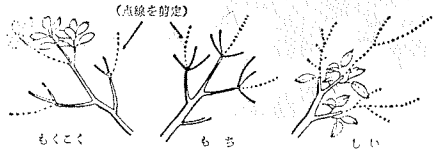
常緑広葉樹は十月～十一月頃、四月前がよく、冬期はさけます。

剪定、整枝、使用用具



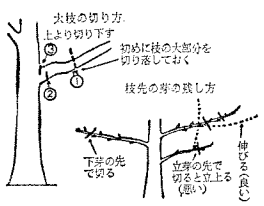
ウメの剪定



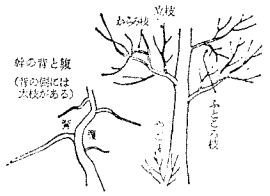


モッコク、モチ、シイの小枝剪定

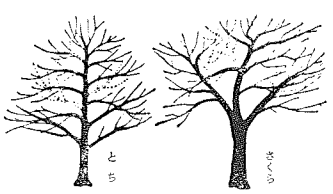
大透し　(1)



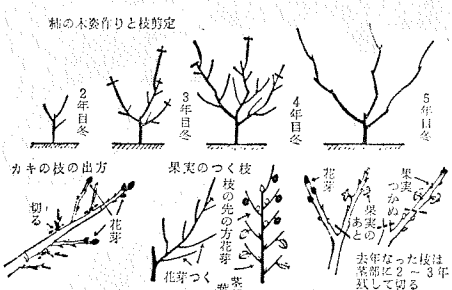
(2)



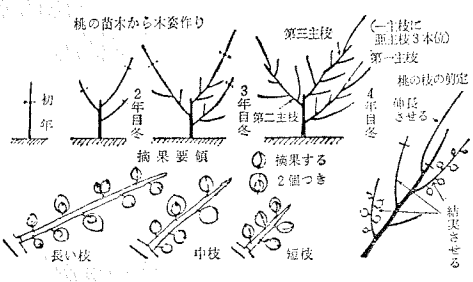
(3)



柿の木姿作りと枝剪定

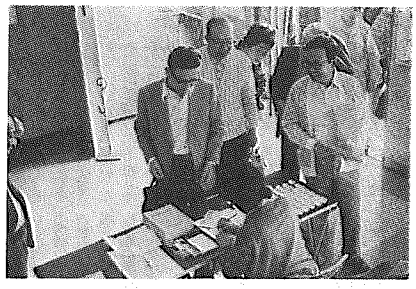


桃の苗木からの木姿作り

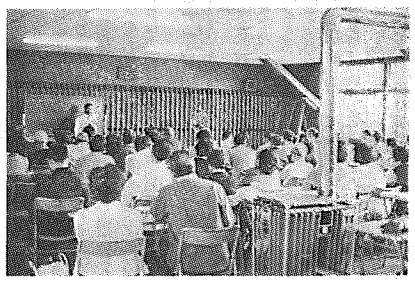


樹木手入れ講習会

場所　都立神代植物公園



受付風景



熱心に講義をきく受講生たち

剪定指導を受ける受講生たち

もっと多く開催してほしい

四百八十一人の応募者の中から千三十二日の抽せん会で、選ばれた受講者百人、抽せん外になった人達も、約二百人が押しかけ受講したいと申し入れ、この人達は、午後の部の実習に参加してもらった。

午前十時、杉本技術委員長のあいさつで開講、受講生は二教室に分れて講義をきいた。

講師は、杉本技術委員長（技術主幹）、吉村主任（吉村造園社長）の両氏。

講義内容は、樹木の手入の意味、剪定の時期、樹木手入れの方法、剪定用具の説明等、豊富な内容だった。

午後の実習は杉本造園土木社長、吉村造園社長と田中氏、宮本氏、宇田川園芸部長がそれぞれ講師になり、各班にわかれて、基本剪定をアオキ、ネズミモチで、応用剪定をツバキ、スギ、ヒノキ等でそれぞれ教えた。

最後に感想記入してもらい閉会、太田副園長の挨拶で終了した。

受講生たちは「植木屋であっても、植木の手入れはこれで良いと言うことはなく、その場、その場で、手入れ方法が異なるので「生涯勉強」であるのでこれからも研究してください」と、しめくくり講義終了。

「講習会を通じて、植物を愛する心を持つてもらうことは、すばらしいことです」と、講習会を高く評価した。

（勝）

「都市緑化月間」最終日の十月三十日、当協会主催の「樹木手入れ講習会」が、調布の都立神代植物園で開かれた。

講師は、杉本技術委員長（技術主幹）、吉村主任（吉村造園社長）の両氏。

講義内容は、樹木の手入の意味、剪定の時期、樹木手入れの方法、剪定用具の説明等、豊富な内容だった。

最後に感想記入してもらい閉会、太田副園長の挨拶で終了した。

業界一
造園用黒土販売
◎多少にかかわらず販売致します
〒158　東京都世田谷区玉川台1―16―9
株式会社　金島商店
代表（700）3775　夜間（700）0410

マキシーバリケート
東京工事ライト（株）
〒164　中野区松ケ丘二―一八―二
電話　三八九―一五一二

花芽の分化期と開花期

樹種	花芽の分化期	開花期
アジサイ	10月中旬～11月上旬	翌年6～7月
ウメ	8月上旬～中旬	翌年2～3月
クチナシ	7月上旬～8月上旬	翌年6～7月
コデマリ	10月上旬～中旬	翌年4～5月
サザンカ	6月中旬～8月上旬	10～12月
サクラ	6月中旬～8月上旬	翌年3～4月
シャクナゲ	6月中旬～8月上旬	翌年5～6月
ツバキ	7月下旬	翌年2～3月
ツツジ	6月上旬～8月上旬	翌年4～5月
フジ	6月上旬～8月上旬	翌年4～5月
ボタン	8月上旬～中旬	翌年4～5月
ボケ	8月下旬～9月上旬	翌年3～4月
モクセイ	7月下旬～8月上旬	翌年9～10月
モモ	8月上旬～中旬	翌年3～4月
モクレン類	5月中旬～6月中旬	翌年2～3月
ユキヤナギ	9月中旬～10月中旬	翌年3～4月
ライラック	7月中旬～8月上旬	翌年4～5月
レンギョウ	6月上旬～下旬	翌年3～4月

中国旅行見いたり聞いたり ㊥

勝芳三郎

昨夜北京着後についぐっすりとねむったせいか、早く眼がさめた。大陸で朝を迎える第一日目である。今日の予定は天安門、故宮等の参観と人民公社、幼稚園の見学、そして夜は北京市革命委員会主催の歓迎会、出席者様々のスケジュールである。午前八時食後に宿舎前に待っていた大通りは長安街と呼ばれる幅の広いところで自動車の数は割でもあるせいかまるで自家用というものは全くない。自動車は全部国有個人で持つのは自転車が唯一の自家用車である。

宿の前に用意されたバスに分乗して先ず天安門に向く。聞きしたがわぬ広大な建物であり故宮第一の門である。我々がバスから降り、記念撮影に余念がないとき、どこともなく大勢の中国の人々が周囲に集まって来て我々の動作を見つめている。日本人が珍らしいのかも知れない。それだけ敵後の交流が少なかったとも言える。おなじ顔色で同じ髪形の友人達である。言葉が通じなくともどんなにか友好を深めたことであろう。

天安門をくぐり前面に見えるのが毛沢東記念堂である。その建物の壮大な威厳振りをお互いに感心しながら、付添の通訳の人の言を借りれば旧い、搾取時代の労働人民の血と汗の結晶で出来上ったものである。しかしその当時の人民の工芸美術の技術というか方法というかその水準の高いことには感嘆と敬意を表し暫く見とれて歩いた。特に宿泊施設の女性向大厨の設置していた設備品などつくづくと見事なものである。

故宮を後にして一行は天壇公園に到着。あたりは観光いレンキョウの花盛り。その一画に青年男女の一団が我々を招待を持って待ち入れてくれた。ここで日中友好の記念に白桜の木の記念植樹の行事に移した。

この記念樹がすくすく育ち伸びる様に日中の友好を祈ると共になくばならない。

今日一日の行事を終え宿舎に戻りしかしとの